

③マタニティブック事業

【経過】

胎児は妊娠20週～25週になると聴覚が完成し、外部の音もよく聞こえ、脳の記憶装置も完成し、母親の声を認識できるようになると言われています。

母親がおなかの胎児に「読み聞かせ」を行うことで、胎教の一環になるとともに、親子コミュニケーションの第一歩となり、誕生後の「ブックスタート事業」「セカンドブック事業」とあわせて、胎児期から学童期までの途切れのない「読書とふれあう機会」を提供することで、これまで取り組んできた「子どもブックライフ応援事業」をさらに充実させることができると考えています。

【事業目的】

母親となる妊娠中の女性に「あかちゃんへの語りかけ」や「読み聞かせ」の楽しさを理解していただき、出産後の図書館利用とあわせて、7カ月健診時の「ブックスタート事業」、小学1年生入学時の「セカンドブック事業」へとつなげることで、本に親しむ機会づくりや図書館利用機会の拡大と子育て環境の充実を図ります。

【今後の方向性】

母子手帳の申請に来られた妊娠中の女性に対し、マタニティブック図書引換券を発行し、図書館利用の際に幼児用の本を一冊贈呈したいと考えています。

パパママ学級などの開催時に、図書館職員も同席し、「読み聞かせ」等を行うとともに、「マタニティブック事業」についてご案内します。